

『 教師海外研修（サモア）を終えて 』

学校名・名前・担当教科	神戸市立長田中学校・瀧口 麻帆（英語）		
実践教科	英語 社会 総合学習		
指導時数	4時間		
対象学年	中学2年生	対象人数	113人
	小学6年生	対象人数	28人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

まずはこのような機会を与えて頂いたことに感謝しています。出発前から現地での研修、そして事後研修まで私にとって、こんなにも学んだ機会はありませんでした。そして、それを私が教えている子供達に伝えることができ、彼らの思いも知ることができたことは教師としては財産だと思います。サモアという国を全く知らなかったにも関わらず、中には「行ってみたい」「もっと知ってみたい」と思っていた子供達もいました。「ここから国際教育が始まるのだな」と実感した次第です。これからは私自身勉強し、子供達と共に考えていきたいと思いました。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ・未知の国
- ・壁のない家？日常生活に興味
- ・食生活はどうなのか？
- ・英語はどこまで通じるのか？
- ・私の防災授業は受け入れられるのか？
- ・生徒は私が「サモアという国に行っ
て勉強してくる」と言っても？？
という反応

AFTER

- ・美しい海と笑顔の人々
- ・壁のある家も多い
- ・学校では壁のない教室もあった
- ・ゆったりと1日が流れる、子供達がよく働くのにはびっくりした
- ・伝統料理「ウム料理」に対するサモアの人の思いに深いものを感じた
- ・自給自足の生活が成り立っていた
- ・英語は中高生、大人には通じた
- ・津波を経験しているサモアの人々に防災授業はしっかり聞いてもらえたと思う。防災グッズがないのでこれから考えてもらえたらと思う。
- ・「先生、サモアって海きれいだった？」調べたのだろうか・・・

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

自然を知らない子供達、学校が終われば遊ぶ所もなく、スポーツをする所もなく、携帯をいじりながら友達とゲームをしたり、連絡をとりあったりしている・・・そんな生徒達にサモア独立国の子供達の生活を伝え、「今、大切なことは何か？」を考えさせたかった。

ベトナムをはじめ多国籍の子供達が多い本校では、外国に対しては違和感なく受け入れることができる。だから、サモアについてはとても興味をもって授業にのぞんでくれた。そして、サモアの子供達の様子を見てとても好意的に思っている。

そんな生徒の様子をみて授業をしていくわけだが、あまりにも伝えたいことが多すぎて、いかにまとめて授業をしていくのが課題であった。サモア独立国という国を知り、学ぶことによって、それがこれからの何らかの生徒の将来へつながればいい・・・という思いが伝わったら今回の研修の意味があるのではないかと思う。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 サモアを知る①	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの地理的概要 ・社会の先生とタイアップしての授業 ・グーグルアースを使ってサモアの位置を確認する ・サモアについて ・サモアの産業や社会的背景について説明する ・瀧口が現地で何をしてきたのかを説明する ・現地で行った防災授業で使った「自分で考える非常持ち出し袋」を配布し、考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・プロジェクター ・防災授業で使った「自分で考える非常持ち出し袋」
2時限目 サモアを知る②	<ul style="list-style-type: none"> ・前授業の復習 ・現地から持ち帰ったモノを見せながら、現地の様子などを説明する。 ・サモアの子供達に配布したものと同じアンケートをさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアのモノ ・アンケート
3時限目 サモアを知る③ 価値観の違い 自分達の生活のふりかえり・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの伝統的儀式「カヴァ儀式」他のビデオを見せる（前授業のふりかえり） ・サモアの現状についてパワーポイント、DVDを交えて説明。自分たちと同じ世代の青少年の現状を知るとともに、理解させる。 ・荒川氏から頂いた「あいのり」のDVDを見せ、自分達に何が出来るか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・DVD ・「あいのり」のDVD
4時限目 開発途上国について知る。JICA 秋山さん来校講演会「世界って大きな1つの家族」	<ul style="list-style-type: none"> ・サモア以外の開発途上国についても現状を説明 ・フェアトレードについて説明 ・フェアトレードの物を買うことだけでも途上国に協力することになることを伝える * 国際協力への姿勢や、今から何が出来るかを考えさせるきっかけとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント

2. 授業の詳細

1 時限目 「サモアを知る①」

■目標

- ・サモアのイメージを共有する

■内容

- ① サモアの位置を確認する。
グーグルアースを使用。
- ② サモアの産業などについて説明する。
サモアの特産物、自給自足が成り立っていること、
日本も色々な形で支援していること。
- ③ 瀧口が何をするためにサモアへ行ったのか説明する。



レファガ中高の子供たち



<ココがポイント>

まず、「サモアってどこ？」が、生徒の疑問である。疑問を解決した後、サモアで何を見てきたかを簡単に説明する。



モアタ小学校の子どもたち



野菜マーケット

◎生徒の反応

「サモアってどこにあると思う？」という問いかけに様々な意見を出した生徒達。しかし、実際に場所を知り、2日間かかって着いたと教えると「へえ～」と意外な顔をしていた。

◎生徒の感想

- ・木に登って果物を取ったりするという生活が一番驚きました。
- ・サモアの持つ技術は日本と比べるとかなり遅れている。でもサモアにはサモアの独自の習慣と文化がある。日本にはないような文化・暮らしぶりがあるって開発途上国ではあるがとてもいい国だと思った。



フリーマーケットで働く人

2時限目 「サモアを知る②」

■目標

- ・サモアのイメージをさらに高める
- ・文化・慣習を知る

■内容

- ① クラスを6つに分け、それぞれに現地で購入してきたモノを置いていく。
- ② 置かれたモノが何に使われるモノなのか一人ずつ紙に書かせ黒板に貼らせる。
(黒板にはモノの写真が貼ってある)
- ③ 1つずつそれが何なのか説明していく



<ココがポイント>

とにかく生徒達が見たことがないようなおもしろいモノを見せてサモアのイメージを膨らませる。



国旗を背景に



子供たちの授業の様子

- ④ アンケートの配布・生徒記入



<ココがポイント>

ここではあえて現地ですったアンケート結果のことは触れなかった。次回の授業で触れることにする。

◎生徒の反応

今まで見たことがないようなモノが並び、??の表情をしながら考える生徒達。そしてそれが何かわかったかを知ると不思議な表情をしていた。「サモアってどんな国なんだろう？」さらにイメージが膨らんだ。

◎生徒の感想

- ・サモアの人自分達の文化をすごく大切にしているすごいなと思いました。今の日本は外国の文化が交っていて日本の文化を細かく知っている人は少ないと思います。サモアの文化を教えてもらってとても楽しそうだなと思いました。これを機会に僕も自分の国の文化は知っておきたいなと感じました。今回はサモアの事だったけど、今度は他の国の文化・習慣についても勉強したいなと思います。
- ・カヴァの儀式というのがあることを知り、そしてそれで使うコップみたいなもので飲み物を飲むというのに興味をもちました。

3 時限目 「サモアを知る③」

■目標

- ・実際に画像見せてサモアの文化・慣習についての知識を深める
- ・本校生のアンケートの集計結果と現地の生徒のアンケートの集計結果の違いを考えさせる

■内容

この日は「長田南区域学校園人権教育推進協議会 神戸市教育委員会研究指定」での授業であった。
(場所：本校体育館)

- ① パワーポイントを使って今までの復習を行う。
- ② サモアの伝統儀式「カヴァ儀式」他映像を見せながらサモアの文化・慣習・生活などを説明していく
- ③ サモアの課題（例えばゴミ問題・教育問題など）についても説明する。
- ④ 荒川共生氏から頂いたテレビ番組「あいのり」のDVDを見せ、「自分達にできること」を考えるきっかけとする。
- ⑤ サモアの生徒のアンケート集計結果と本校生徒にとつたアンケート集計結果を配布し、価値観の違い、生活の違いを感じさせる。



本校2年生の授業の様子



本校2年生の授業の様子



<ココがポイント>

今まであえて映像を見せずにサモアという国のイメージを持たせていた。この授業で今までのサモアのイメージ、学んだことがどう膨らむかが楽しみだった。



<ココがポイント>

価値観の違いを知り、自分達の生活と比較し考えることも大切だが、それだけでは自分達の暮らしが豊かである・・・で終わってしまう。サモアの抱える問題、また日本が支援していることを知り次回へつなげたい。

◎生徒の反応

今まで見たことのない映像を見て画面にくらいつくように見えていた。そして、サモアの抱える問題点について触れた時は真剣に話を聞いていた。何かを感じたのだろう・・・

◎生徒の感想

- ・サモアのことを学習する前は、日本が一番良くて、技術が進歩し豊かな暮らしができるのが幸せだと思っていたが、そうではなかった。技術が進歩した中で暮らす私達の社会にはいじめや、犯罪がある。人の温かさを知らない子供もいます。サモアの人達は自分達のことを幸せだと思っています。技術は進歩していなくても人々が支え合い、助け合いながら生きているサモアの社会はしっかり成り立っていると思います。
- ・We are happy!と言うサモアの人達を見て開発途上国だけどいい国なんだなあと思いました。先進国よりもいいのかなあと思いました。

4 時限目 「開発途上国を知る」 JICA 秋山玲美さん講演会

■目標

テーマ

「世界って、大きな1つの家族」

■内容

- ① ご自身の経験談（青年海外協力隊時代）
- ② JICAについて
- ③ フェアトレードとは？
- ③ 世界は一つにつながっている、日本も他国に支えられている。では、日本は他国、特に「開発途上国」には何ができるのだろうか？



講演会タイトル



<ココがポイント>

わかりやすいパワーポイントを使っての開発途上国についての説明、話であった。

実際にフェアトレードのモノを持参し、視覚で講演していただいたことは、とても生徒の心には入っていた。

JICAについてもわかりやすく説明して頂いたので、「神戸にもそんな所があるんだ」と思った生徒達も多かった。



秋山玲美さんの講演の様子

◎生徒の反応

わかりやすい説明であったため、生徒達は真剣に聞いていた。開発途上国についての知識も高まったようであり、フェアトレードの商品をきっと生徒達は買うであろうと思われる反応であった。

◎生徒の感想

- ・今日の講演会で JICA についてよくわかりました。JICA から派遣された日本人が色々な国へ行き、技術を伝授したり、医療関係の支援もしていることなどたくさん教えて頂きました。外国と繋がりをもつことでこんなにみんなが幸せになれるんだと思い、すごいなと思いました。タイトルが「世界って1つの家族」というのを見て、不思議に思っていたけど最後までお話を聞きその意味がよくわかりました。私達が当たり前で食べている物や衣類などはほとんど開発途上国からの輸入で、それがなければ私達は生活することができない、つまり、お互いに繋がっていてお互いが幸せに暮らせる・フェアトレードの話も聞き、その意味もよくわかりました。開発途上国が作ってくれた食べ物や物を大切にしようと思います。今日はとてもよい勉強になりました。

◎所感

サモアへ行くと決まった時、自分にとっても未知の国へ行くということに大変喜んだことを覚えている。自分なりに下調べもした。そして一緒に同行する仲間との出会いもとても貴重なものとなった。現地で防災授業をすることはチャレンジだった。果たしてその授業がどう伝わるのかとても不安だった。しかし、津波を経験した日本とサモアの共通点はとても大きいと思う。サモアの被災地を訪れた時に現地の学校の生徒の話や先生の話聞き、私達にも共通する心があると確信した。

私は教師であるので、学校現場の様子を見てきた。生徒達のあふれんばかりの笑顔が印象に残っている。私の名前を何回も何回も呼んでくれた生徒達、しかし彼らの学習環境は日本に比べはるかに悪い状況だった。机がそろっていない、椅子もない、黒板は古びている、教科書はない。生徒はペンとノートを持って床に座っている。図書室の床は今にも抜け落ちそうであり、読めるような本は無い。紙があまり無いのでプリントも十分に配布できない。これが当たり前だと思っているのならあまりにも悲しいことである。私は持っていた紙類、折り紙、そして持参していった「非常持ち出し袋」を現地の学校の先生に渡した。特に「非常持ち出し袋」については「このようなものは無い」と興味をもったようであった。

ホームステイ先では手厚いお持てなしを受けた。客とホームステイ先の主人が先にご飯を食べ、残ったものを夫人、子供たちが食べる習慣が確立している。実際にステイをし、現地の子供たちが「家族が一番大切」と言っていた意味がよくわかった。思ったよりも食べ物はふんだんにあり、自給自足の生活が成り立っている。エチオピアなどのように、子供がやせ細って死に至るという現実はないようだ。

私達は帰国後に授業をするための資料や物を購入するため、毎日のようにマーケットに出かけた。特に野菜を売るマーケットでは、にぎわってはいるが、何か暗い印象を受けた。海外旅行ではマーケットではよく値切ることがある。私達もサモアで同じようなことをした。サモアのお金「タラ」をあまり持っていなかったため、「We are poor」と思わず言ってしまった。すると、「We are more poor.」と言われた。啞然として帰ってきた。1タラは日本円で40円ほどである。それを値切ろうとした私の心にかかなりの罪悪感が残った。

津波の被災地を訪問した時だった。現地の方が現地のJICAの方に「水の供給の設備をなんとかしてほしい」と訴えた。とても日本を頼りにしている様子だった。確かに何とかしてあげたい。でも、何か腑に落ちないものを感じた。これまでの学校訪問、人々の生活をも思い出して・・・あまりよくない表現かもしれないが、「他国の援助を待っている」という感じがしてならなかった。誰かが何とかしてくれる・・・そういう風にも受け取れた。私達日本人も戦争に負け、多くの物を失った。しかし、日本人はなんとかしてはい上がり、今の日本を築きあげた。

サモアの教育環境の悪さも、サモアの人で良くならないなら、他国の人と共に技術を学びよくして欲しい。水の供給の設備についても技術を学び、自分達でもなんとか頑張ってもらいたい。そのための開発援助ではないかと考える。サモアはとても美しく、素敵な国だ。だからこそ、私達日本人や他国のボランティアが現地で活動をしているなら、そこで技術を学びもっと住みよい国になってほしい。現地で日の丸を背負って頑張っている協力隊員の皆さんを私は誇りに思った。

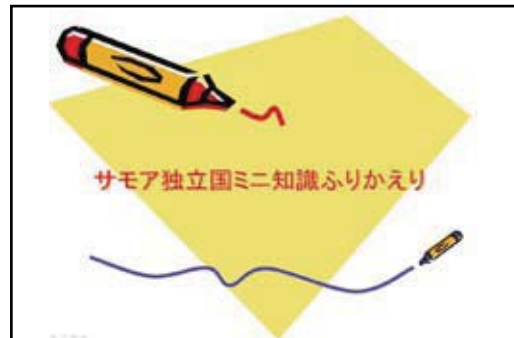
3. 成果と課題

生徒達は「サモア独立国」という今まで知らなかった国について知り、これから何らかの形でその名前を目にした時、きっとこの4時間の授業を思い出さるだろう。日付変更線が変わり、サモアが世界で一番朝が来るのが早いとされたことが新聞に載っていた。それを知った生徒はきっとサモアの話が家族でも話していると信じたい。私の今後の課題としては、もっとサモアだけでなく開発途上国について、そして今そういう国々で起こっている事実を知り学ぶ必要があると思う。この度の研修がそのスタートだと考えている。私達はinputすることは簡単だが、outputすることはなかなか難しい。でもそれをしていくのが私達教師の役目であると思

っている。

参考資料

- ・参考文献
「神戸新聞社 阪神・淡路大震災写真集」
- ・参考ホームページ URL
<http://www.tos-land.net/>



Please tell us . . . 

1. How do you spend after school?
I go home at my mom and my dad are waiting at home for me. Eat my food and do my homework. and after I go to sleep.
2. How do you spend in your weekends or holidays?
On weekends I go to the market and buy some things for home and on Sunday I go church every Sunday.
3. What is your dream?
My dream is to be a doctor in Japan look after the kids in Japan.
4. What do you want Samoa to be like in the future?
Samoa people are very clever people so our mission is to seek for better future.
5. Could you write a message to Japanese students?
Talofa lawa @ My name Diko Thank you for visit and God bless you and Japan students.
6. What is your treasure?
I want to give my whole life to Jesus and give all things people all over the world. Amen.

Diko An Pe. Thank you!